



北山太樹：昭和天皇のご研究室 —昭和天皇記念館の場合—

昭和天皇（1901-1989）は生物学者であった。その研究者としてのご経歴は、ややとすれば「陛下の意外な一面」としてのみ取り上げられがちであるが、生物学御研究所に保管された動植物の標本や多数のご著書をみれば、多忙なご公務の合間をさいて生物採集と研究に費やされてきたその長年の蓄積であることがうかがえる。昭和天皇は、世界的な研究成果をあげられたヒドロ虫類を始めとして、相模湾で海洋生物を、那須や須崎では陸上植物を、精力的に採集され、徹底的に研究されており、昭和期のすぐれた博物学者としての位置づけも可能であろう。

2005年11月27日に、国营昭和記念公園（立川市）内に開館した昭和天皇記念館は、昭和天皇のご生涯をゆかりの資料をもちいて展示しているが、ご研究についても広いスペースを割り、「昭和天皇の生物学ご研究」と題して紹介している。とりわけ、生物学御研究所内の御研究室を復元し、海産動物の液浸標本や海藻の押し葉標本などを配置したコーナーは、昭和天皇の研究生活のご様子が伝わってくる深い趣のある展示となっている。展示されている海藻は、葉山や須崎の御用邸にゆかりの深い、緑藻ウスバアオノリ、褐藻エンドウモク、紅藻ニクムカデの3点である。いずれも開館から1年に限り、生物学御研究所に収蔵されていたコレクションの標本が展示され、昨年12月からは同種の新しい標本に置き換えられている（御研究所の標本は、国立科学博物館に移管され、整理・研究が進められている）。

じつはこれら展示標本の選定も含め、昭和天皇記念館における生物学関係の展示は、ご進講の経験もある千原光雄氏（本会名誉会員、筑波大学名誉教授）が顧問となって準備が進められた。千原先生の尽力により緻密で完成度の高いクラシックな展示に仕上がっている。筆者はかつて国立科学博物館の



図2 生物学御研究室（復元）。手前のガラスケースに展示されているのが、海藻の押し葉標本：（左から）ウスバアオノリ、エンドウモク、ニクムカデ。

常設展示に「分類学者の部屋」と称した体験型展示を企画したものの諸事情により実現しなかった経験があるが、この展示には夢でみた光景をみる思いである。

本稿の作成にご協力くださった、昭和天皇記念館の富士野行良氏と国立科学博物館の並河 洋氏に感謝する。

（国立科学博物館 〒305-0005 つくば市天久保4-1-1）

【昭和天皇記念館】

所在地：〒190-0014 東京都立川市緑町3173番地 国营昭和記念公園 花みどり文化センター内、Tel：042-540-0429、HP：<http://www.f-showa.or.jp>、交通：JR立川駅北口から徒歩13分もしくは多摩都市モノレール立川北駅から徒歩11分、開館時間：3月1日～10月31日 9:30～17:00、11月1日～2月末日 9:30～16:30（入館は、閉館時間の30分前まで）、休館日：月曜日（月曜日が休日の場合は直後の平日）、年末年始（12月31日・1月1日）、2月の第4月曜日とその翌日（公園の施設点検日）、入館料（括弧内は20名以上の団体料金）：一般 500円（350円）、大学生・高校生 300円（210円）、中学生・小学生 100円（70円）、心身障害者とその介護者1名は無料、駐車場：国营昭和記念公園の立川口駐車場（有料）をご利用ください。

この企画では、藻類を展示している博物館・水族館・植物園などを紹介していきます。藻類のユニークな展示・普及教育・標本管理などを行っている国内外の機関や団体について会員からの情報をお待ちしております。



図1 昭和天皇記念館。開館1年間で6万5千人が来館した。